

令和2年度第2回定例会

日 時： 令和2年8月21日（金）午後2時30分から午後4時00分

場 所： 本館 閲覧室

出席者： （図書館協議会委員）委員7名
（事務局）図書館長、図書館本館整備担当課長、
企画運営担当主査、総務係長

会長 本日は委員全員が出席しているため、多摩市図書館協議会規則第4条により令和2年度多摩市図書館協議会第2回定例会を開催する。

事務局より配付資料の確認をお願いする。

事務局、図書館長より配付資料の確認。

会長 本日の報告事項一つ目である多摩市立中央図書館の整備についてから進めたい。

本館整備担当課長 多摩市立中央図書館整備について、開札を行ったところ、入札不調となった。中央図書館の建設工事について、4件の工事を分離発注している。本体建設工事・電気設備工事・給排水衛生設備工事・空調設備工事の計4件の工事を告示し、6月5日から入札手続きを行い、8月13日に開札を行ったが、そのうちの2件が失格となった。4件一括で契約を進めていくので、2件の失格により、4件とも打ち切りとなった。失格の原因の分析を行い、再入札を行う予定である。10月から建設工事4件を着工し、令和4年の11月に開館することを目指していたが、再入札不調の原因を分析し、必要な手立てを講じた上で、再入札の手続きをするため、数カ月か、半年か、もしくは1年くらい開館が遅れるかもしれない。

会長 二つ目は、関戸図書館・永山図書館の自動貸出機等導入に伴う休館について説明をお願いしたい。

図書館長 関戸図書館・永山図書館の自動貸出機等導入に伴う休館について報告する。利用者サービスの向上と業務の効率化を目的とし、関戸図書館・永山図書館にICタグを利用した自動貸出機・自動返却機、予約受取コーナーを導入し、10月から運用を開始する。これに伴い、機器の設置やレイアウト変更、職員研修のため、休館する。多摩市立図書館は、多くの貸出者数、貸出資料があり、予約についても全国の同規模の自治体の中では非常に利用が多い図書館である。そういった中で、このような機器の導入により貸出・返却・予約業務の受け渡しをセルフサービス化し、カウンターで待たずに貸出返却を行うとともにプライバシーの保護

もでき、利用者の利便性の向上と業務の効率化の両立を目指している。自動貸出機では、10冊程度の本を置いて、利用者カードを機器にかざして、まとめて貸出ができる。予約棚は、予約されている本を並べ、利用者は予約本照会機に利用者カードをかざし、レシートを受け取り、レシートに記載された棚から予約本を受け取り、自動貸出機で貸出を行う。図書館ホームページから本の予約ができ、本が用意できたらメールでお知らせし、図書館に来て、予約棚から自分で取り出し、貸出という流れで、コロナウイルス感染拡大という状況の中で、非接触に近い形でのサービスにつながる。休館のスケジュールは、関戸図書館は10月5日から9日まで休館し、10月10日から開館とする。永山図書館は10月12日から16日まで休館し、10月17日に開館する。

会長 では、三番目の多摩市学びあい育ちあい推進審議会の報告について、委員から報告をお願いします。

委員 7月16日と8月20日に学びあい育ちあい推進審議会があった。7月16日には、会長と副会長が決まった。東京都市町村社会教育委員連絡協議会は書面開催であった。学びあい育ちあい推進審議会の令和2年度の検討テーマとして「社会教育施設のあり方」について提言を2年かけてまとめることになった。1年目はコロナ禍での取り組みで各団体の状況を報告し合うことになった。また、第4次多摩市生涯学習推進計画策定も半年延びるなど報告があった。図書館長の報告にもあった関戸図書館・永山図書館の休館についての話もあった。

会長 図書館も社会教育市政に関わっており、その活動の説明があったとのことである。また、今後の推進審議会での審議の方向性についても報告いただいた。質問、意見をいただきたい。

副会長 関戸公民館の関戸地球大学院事業は連携する大学を3大学から6大学に拡大して行うと報告があったが、関戸地球大学院事業とはどういった事業なのか、いつごろからやっているのか伺いたい。

委員 4～5年やっている。

会長 事務局はいかがか。

本館整備担当課長 学びあい育ちあい推進審議会に出席していたので、お答えする。関戸地球大学院は、何年も前からやっており、大学の教員が連続講座のようなものを開催している。人気があり、多くの方が受講している。これまで3大学と連携して実施してきたが、今年から6大学に増やして、より充実した講座にしたいということだった。環境問題や様々な分野の講座が開催されている。

副会長 これは公民館主催事業ということか。

- 本館整備担当課長 公民館主催事業であるが、大学の教員が講座を開催するものである。
- 副会長 これは市民が受講するのに費用が発生するものなのか。
- 本館整備担当課長 記憶が定かではないが、費用は無料だったと思う。
- 副会長 大学はいろいろな公開講座をやっている。有料だったり、いろいろなテーマで開催されているが、市民が無料で受講できるものであれば、非常にいい試みだと思う。
- 会長 大学が学外に出て行って、こうした機会を提供するのはとてもいい試みである。無料であればなおよいと思う。
- 委員 関戸公民館長に確認しておく。
- 副会長 「健幸」という造語についてのご意見があるが、大事な指摘をされている。ご意見にあるように今後も使用するなら、間に「・」を入れたらどうかということだが、会の中ではどのようになったのか。
- 委員 報告だけであった。
- 図書館長 昨日の会には、出席したが、「健幸」について同じような意見があり、表記の仕方について意見も出ていた。ただ担当課でも考えて使用していることもあり、もう少し、表記の仕方については、検討していきたいというところで終わっている。
- 委員 レファレンスサービスの状況について資料を提出し、発表した。東京都立図書館の資料である。多摩市立図書館は毎年レファレンスサービスが伸びている。
- 副会長 多摩市と東大和市が数値が高いことを説明したのか。
- 委員 会では、多摩市の話だけした。
- 会長 社会教育に関わる全体の会議で、図書館の有用性を示していただいたと理解した。
- 今日の議題は、前回から引き続き、図書館事業評価である。前回は、事務局から事前に資料を送付いただき、委員が意見を持ち寄り、議論した。会議後、協議会での意見を踏まえて、さらに意見聴取し、それを事前に配布することとしていた。今日はこれらの結果に基づき、A・B・Cで評価を行いたい。評価がこの会議で決まればそれで終了とするが、まとめられなかった場合は、本日の意見交換を踏まえ、事務局と会長で最終案を作成し、各委員に確認したのち、評価を定めたい。
- なお、本日の進め方であるが、最初に各委員から評価いただき、内容を議論したい。これに加え、次年度以降の図書館に対する意見として記録すべきことも記しておきたい。
- 資料は2-1である。まず基本目標1の評価はいかがか。

個人的には当初は「A」と思ったが、よく読むとできていないところもあるのではないかというご意見もあり、「B」に近い「A」とみている。図書館から追加事項はあるか。

図書館長
委員

特にない。

前回、図書館から報告いただき、かなりわかりやすくなったと思う。「A」か「B」かっていうのは、難しいと思うが、評価軸みたいなものがある、例えば、10項目中8割「A」なら「A」というのがあればいいが、今はない。総体的には図書館側の追記としていただいたところで内容がわかったので、やってないところも多少あるようだが、「B」よりも「A」に近いと思う。

副会長

すごく迷ったが、結論からいうと「B」に近い「A」かなと思う。なぜかという、基本目標の1, 2, 3とあって、2, 3はいいが、1のより利用しやすくするための配慮というのは、いままでの図書館のサービスで特に利用しにくかったらうなという世代をとりあげてやっていることはわかるが、利用しにくい市民の中に高齢者であるとか働いている人であるとかもいるわけなので、そこへはどんなことをしたかということが事業計画でも薄く、多少は書いてあるが、報告も少ない。高齢者向けだけ施設に伺ってお話会をした報告は見たが、その視点がもとの計画そのものにも少なかったと思うし、今後に向けて意識的にやってほしいという意見があるので「B」に近い「A」だろう。

会長

「誰もが」と書いてあるのに、ある特定の利用者には注目していて、その対象に対するサービスはできているが、利用者全体に対する配慮というか、注目がもっとあってもいいのではないかということである。実施しているかどうかはともかく、事業計画に反映させてあること、またその取り組み状況が示されているともっと良くなるだろうということと理解した。

委員

全体的にみれば、取り組みもきちんとされているので、「A」でいいかと思うが、気になるのが、赤ちゃんや子供、団体などターゲットが絞られているところは検索しやすいと思うが、一般市民に対しての取組が具体的にわからずに図書館ホームページが充実していても、興味がなければ、ホームページも見ないし、行かなければ展示が充実していることもわからないので、まず、一般市民の全く接点のない人たちへどんな取組をしているか具体的にもう少しわかるといいと思った。例えば、前年度と比べてどうなのかとか、全体に向けての発信をもう少ししてほしい。

会長
委員

同意見である。こうした点をより明確に明示できるとよい。

誰もが使える図書館という目標は素晴らしいと思う。先ほどの統計の

数字からみても多摩市は貸出が多いのもっともっと伸ばすためには、その視点がすごく大事かなと思う。取組は「A」でいいと思うが、今日も高齢の利用者が「ここに来るまでに死にそうだった」と言っていた。図書館の中は使いやすいが、ここに来るまでのアクセスのところで死んでしまっては仕方がない。今度、新しい図書館は近くなるが、先にちょっとのびてしまったし、高齢者が来た時に気持ちよく使える、過酷な道を通って来なくても使える、その辺の配慮もいいと思った。

委員 前回指摘された点を直したというところで「A」にした。

委員 「A」だと思う。図書館に来るのも1カ月に1回とか協議会の時に来るが、仕事柄、参考になる本がないか見ていくことがある。数年前の本で、今の保育現場からはかけ離れていたり、5年、6年前くらいの本ではちょっと現状違うかなと感じるので、そうすると買った方がいいのかなとかネットで探そうかなと思う事もあった。もうちょっと情報とリンクできたらすばらしいかなと思った。あとは、今年はないと思うが、職場体験は今の中・高生はネット社会にいるので、その子供たちがいい経験ができるっていうのは大変大切なことだと思うので、来年はまた復活出来たらいいなと思う。

会長 委員の皆さんの意見を総合し、「A」と評価したい。

続いて、基本目標2「子どもへのサービスの充実」である。図書館の自己評価は「A」であるが、委員からはもう少しこういうことをしてほしいという意見も追加されている。これも先ほどと同様、当初は「A」であったが、現在の評価は「B」に近い「A」である。図書館から補足はあるか。

図書館長 図書館協議会の意見として、3つ目にアクションプランの作成について市民ボランティア連絡会とも情報を共有して進めてほしいとあるが、前回は申し上げたが、アクションプランは具体的に活動する学校や市内の関係課が自ら目標として設定し、それをその年度はできたかできなかったかという評価をするものである。その作成に関して、市民ボランティア連絡会と関わるというのは難しいと思う。アクションプランの毎年の成果を市民ボランティア連絡会のみなさまに見ていただいて、今後の取組についてご意見を伺えればいいと思う。そういう位置づけで作っている。

会長 「改善の方向性」というところに行政としての対応方法を記してあれば、全く問題ないと考える。

副会長 今のことに関連して、市民ボランティア連絡会の仲間から、「情報共有が足りない」という意見があり、代弁した。今の館長の話聞きくと、やはり連絡会の中で、アクションプランはこういうものでこんな位置づ

けであるとか説明を十分ボランティアの方に理解できるよう説明されているのかなと思った。その位置づけが共有できていないと誤解が生まれたりする。疑問の点を改善したらもっとスムーズにいくのではないか。

会長 副会長から発言により、情報共有を含め、出来ているところ出来ていないところが分かり、今後その改善が見込めるということでよかったのではないか。副会長の評価はいかがか。

副会長 100%「A」とは言えないところがあるかと思う。一つ戻るが、基本目標1の対象年齢についても子どもなので、取り組み2に入るが、そもそも目標の立て方でこういう分けをしているのだから、その分け通りに評価するのが計画・目標に対する評価になると思う。どこかに書いたが、2の対象年齢に入るものはみんな2にまとめてしまう、つまり第三次子ども読書推進計画の推進は子どもに関するサービスの充実のひとつの在り方なので、ここに集約していくという方向もありなのではないかと思う。結局、再掲と書かれてしまうわけなので、今年度の表を見たときに2の表にまとめて書いていく方が整理しやすいのではないかと思った。みなさんの意見や図書館はどういう考えでこうしたのか聞きたい。

会長 子どもに関わる事項は、子どもの読書推進計画の中にも含まれているので、こちらでまとめたかどうかという意見であった。これについて図書館から何かあるか。

図書館長 事業評価にあたっては、多摩市読書活動振興計画に基づいて、毎年度事業を決めて、評価をいただいているところだが、この計画の作りとして、例えば基本目標1「だれもが使える図書館」では、もともと計画の中にある具体的な取り組みの中に子どもやティーンズ向けの取組が盛り込まれているのでそれを受け毎年度の目標を作っている。なので、各基本目標のところに例えば子どもの関係の取組が入っていたりという感じになっている。今後、計画を改定するときに例えば、子どもやティーンズ向けということであれば、それについては、子どもの読書活動推進計画に基づく取組という風にまとめるという方法もあるのかなと思っている。今回はそれぞれの目標の中にさまざまな取組が入った計画であるということである。

会長 今後の整理の工夫を期待したい。他の委員はいかがか。

委員 学校の視点から、2年前にプランを策定して、昨年くらいから始めたところだが、今回のコロナで普段通りに昨年末くらいからなかなかできなかった。開館できなかった。その辺も今後、令和2年度・3年度の図書館の使い方に関しては、考え直さなくてはいけないところがあるのか

な、今まで通り、子どもが多く参加すればよいというわけではなく、入室規制があったり、図書館の使用方法が変わってしまうので、今後、どのように扱っていくのか、あらたに作り直すのは学校図書館司書や先生に負担がかかってしまうので難しいなと感じている。

会長 9 ページの一番上にある意見は、今回は新型コロナウイルスに関してであったが、それだけではなかったのではないかと思う。これまでもそうであるし、こういう状況であるからこそもっと積極的に図書館から情報を発信したり、連絡したりしてほしいという意見、要望と考えるのがいいか。

委員 やってほしいというか連携をしてほしい。図書室は知の拠点と言われているが、学校の中でも図書室って大事な役割でいかに充実させるかっていうのは、すごく大事な部分である。そういった連携がもっとできるといいと感じる。

委員 委員がおっしゃった通りで、今、保育園に 2 千冊くらい本があり、保育の中では使うが、図書館への団体貸し出しも行っていないし、いつも唐木田図書館から借りたりしているのも今は、行っていない状況である。親子と一緒に本を読むスペースがあるが、そこも今は閉じている、そういう状況が今、現実なので、今後どうやって進めたらいいのか、いつから本を貸出していいのか、親子が溜まると密になるなど悩むことがあり、本の消毒をどうしたらいいのかとお聞きしたが、やはり利用された資料を一定期間隔離することもできず、悩んでいるのは図書館も同じだと思う。なにか情報をいただけたら、正しい情報を発信していただけたらいいなと思う。

会長 令和元年度の評価ではあるが、コロナウイルスについての対応も追記することとしたい。

委員 概ね評価できる。確認したいが、図書館協議会の評価の中でアクションプランの振り返りのためにアンケートを実施したとあるが、図書館側の標記だと第三次計画の実施に向けてアンケートを行ったと書いてあるが振り返りも包含したアンケートなのか。

図書館長 アクションプランというのは、第三次計画を具体的に各所管だったり学校がやるときはどういったことをやればいいのかという細かい具体例、具体的な施策である。もともとの第三次計画という大きな目標があるので、その実現の中でいままで課題となってきたものがいくつかあり、第一次・第二次と課題として残してしまっているもので、第三次ではしっかり実現しようというところで、計画の実現に向けて、情報を収集するというためのアンケートである。

委員 図書館協議会の評価の表記自体が間違っているということか。

図書館長 その通りである。

会長 図書館協議会の評価は、事実を照らし合わせて修正した方がよい。この内容で合っているか。

図書館長 少し違う。

会長 ご意見いただいた委員と事務局で相談して、適切な表現に修正していただきたい。ほかに意見がないようなので、評価は「A」としたい。では、続いて基本目標の3「市民や地域に役立つ図書館」である。要望もたくさんあるが、評価している意見も多い。様々な活動を具体的に積極的にに行っているという意味で、「A」と考えたが、みなさんはいかがか。

委員 継続して実施しているものもあるが、オリンピックなどについて実施しているのもあり、力を入れてやられており、「A」でいいなと思った。

副会長 追記されたところで、「基本目標として掲げたテーマがこの範囲にとどまってよいかどうかは検討の余地がある。」という意見がでていますが、もう少し詳しく伺いたい。

会長 これは私の意見である。市民や地域に役立つと書いてあるが、4つのテーマのうち3つは「読書活動」と書いてある。「読書活動」の「読書」をどのようにとらえるかによって評価は異なるように思われる。たとえば、社会人に対してどんなサービスを提供するのかを考えたとき、果たして「役立つ」のは「読書」だけなのか。目標をもう少し多様に、あるいは柔軟に考えてもいいのではないかと考え、このように表現した。

副会長 今、会長がおっしゃった読書活動ということが読書活動振興など3つ書いてあるということは、「多摩市読書活動振興計画」というものがあって、その目標を実現するために計画を立てている。そこから出てきた言葉であろうと想像するが、図書館の活動を目標を持って実現していく、つまり多摩市立図書館事業計画ならわかるが、読書振興計画という計画そのものが位置付けられているというところに疑問を持っている。そこをすぐに変えることは行政の中では計画があつてそれを推進していくという仕組みになっているので、すぐには変えられないかもしれないけれど、やはりどこかで見直す必要があるのではないかとすることは伝えておきたい。どこの図書館でも図書館活動・図書館事業計画というものがあつても読書活動とは言わない。そういう風に限定的にイメージ付けられることはしないので、計画を作った時にも疑問に思った。

会長 誤解のないように申し上げるが、多摩市立図書館は図書館としての事業計画がある。他方、読書活動の推進は図書館が主体になっている自治体もたくさんあるが、図書館だけでなく、いろいろな主体や担当する人たちがいて、それを市が取りまとめて、推進計画としている。多摩市では図書館がこれを重点的に担うと事業計画の中に位置づけられている

と思われるので、そこに齟齬はないのではないかと。ただそれが、そのように見えているのだとすれば、事業計画の表現を明確にしたり、他の部署との連携を明示することが求められるのであろう。このほか、評価についてはいかがか。

委員 令和元年度の中で考えるとこの読書活動の3点と地域資料の活用によるというところでは「A」だと思うが、今後新しい図書館を作ったりだとか、多摩市の中での図書館の役割っていのを考えたときに会長がおっしゃられたように読書活動とこういう風に並べて、答えになるかと考えた時に、福祉とかそういうところの役割をになってもいいのかなとただ本を読めばいいっていうそれだけだったらすぐに「A」になるが、それ以上の役割が公立図書館には必要になってくるのではないかとというのがあって、ここの視点をもう少し変えないといけないと考える。

会長 多摩市としての新たな課題が当然あるだろうし、それをここに盛り込んでどうかという意見である。

副会長 言葉の使い方、11 ページの社会教育施設に相応しい事業であるとするが、学校図書館や特別支援学級への貸出を行ったということなので、良い事業であるとか相応しい事業であるという風にしたい方がいいのではないかと。

会長 これは社会教育施設としての図書館にとって相応しいという意味ではないかと考えるが、いかがか。

副会長 図書館が相応しい事業をやっているということで理解した。図書館がという風に直した方がいいと思う。

委員 ビブリオバトルなどを通して改善したということで「A」をつけた。

会長 複数の方から「A」評価をいただいているので、「A」とする。

4つ目は、基本目標4「しらべるを支援、つなげる図書館」である。ここには2つの取組目標があり、協議会の意見には多くの希望が出ているように見受けられる。それも踏まえて、私は「B」とした。みなさんからご意見をいただきたい。

委員 図書館への希望とか要望が評価になるのか、事業をやったかやらなかったかというところが評価されるものだと思う。評価は「A」でいいと思う。細かいところですが、各課連携企画展示については、図書館側で昨年度実施できていることで、事実を書いているだけに過ぎない。昨年度に引き続きのことが書いてある。もし書くなら、担当者が地域課題の認知に役立て、図書館の役割について認知を高めたというところかと思う。

副会長 パスファインダーを様々なテーマで作っているというところはとても評価できる。本館カウンター近くにまとめて設置しているとなってい

るが、各館でも同じように展開されているのか。

企画運営担当主査 パスファインダーの設置場所については各館によって置き場所の確保が難しい部分があるので、企画展示にあわせて展示したりしているが、全てをまとめて置くことができない。

副会長 本館について、カウンターの横に並べてあるがここにパスファインダーがありますよって、ぱっと一目で気が付くようなキャプションがないので、やはりここに力を入れているというのであれば、市民の方が聞かなくても気が付くようにしてほしい。すごく大事な情報だと思うから本館だけでなく、関戸や永山はもちろん地域館にもそれが置けるように改善の必要があると思ったので、「B」にしたい。

委員 「B」だと成果が少なく課題が残ったとなるがそこまで言えないかなと感じがするので、「A」と「B」、難しい。評価が低いわけではないので「A」になるのかなと思う。

委員 私は、できているということで「A」です。

委員 つながる図書館のつながるというのは、大事なキーワードだと思います。デジタル資料の提供でデータベースの使い方講座を市民向けに開催したとあり、参加者が少なかったがその有用性を市民に知ってもらう良い機会となったというところは、もうちょっと欲があってもいいのかなと思う。もっとつながるということを大事にするならばもっと広めてみたいみたいな評価があってもいいかなと思い「B」にした。

委員 この分野は苦手だが、基本目標はわかりやすく書いてあるが、具体的な取り組みを読んでいくと難しいことが書いてある。評価は「A」である。

会長 目標を立て、やるべきことはきちんとやっておき、成果も少なくないので「A」でよいかと思う。ただし改善の余地があったり、「しらべるを支え」は多く記されている一方、「つながる」は物足りなかったりということもある。基本目標とその下にある小さな目標を見ると、もっと適切な目標があるのではないかとも思う。今後、図書館で計画を立てる際の材料にしていただきたい。評価は「A」としてとりまとめたい。

会長 最後に基本目標5「弾力的な管理・運営」である。これは、どちらかというと私たちの目から見えない活動ではあるが、私たちだからこそ情報を得て、評価できる立場にあるとも言える。図書館からの評価は「B」であった。

会長 当初、私は、課題がたくさんあり出来ていないところもあるが、取り組むべき課題は認識していてそれに取り組もうとする姿勢があるということで「A」と考えていた。前回の協議会で、職員体制の見直しが十分ではない、やるといったことをやっていない、いくつかの目標を立て

たがそこにたどりつけていないように見えるという意見があったので、「B」でもよいかと思っている。みなさんから意見を頂戴したい。

委員 工事が遅れたとか説明をうけたり、職員体制問題はやはり行うのがいんじゃないかということで、あえて「B」とする。

委員 図書館の自己評価のところでは実施設計が完了しなかったため、「B」とするとあるが、協議会の中では5月まで延長して無事に建築申請許可を得ているので、むしろ職員の努力を評価したい。これは具体的には図書館側に瑕疵があったのか、あるいは設計者側に誤りがあったのか、ということなのか。

本館整備担当課長 設計業務の中では多くの関係者と調整をしながら進めてきた。うまく進まなかったことがあるとしたら私たちの責任と考え「B」にしている。

委員 あとは先ほどもありましたが、できなかった事実もあるので、両方を見てしまうと「B」なのかな。

副会長 ボランティア活動状況の情報収集のため、北区立中央図書館を視察されたがどのような点を今後の参考にしたいのかを伺いたかったが、文言が追加されたので削除している。

委員 今後はたずねることではなくて、あくまで評価を書いてほしいと思う。

会長 表現については、最終案を作る時に私の方に一任いただきたい。事務局と内容を確認して、あらためて委員に示したい。

副会長 そのうえで、私の評価ですが、重なりますが職員体制の見直しというところ、時間的な制約があったということも理解する中で、計画したのに至らなかったし、重ねて窓口業務委託の見直しについての検討も何度かお尋ねしている中ではやはり取り組めていないのだろうと思う。いろいろ難しい状況があることは理解をしつつも市民から負託されて業務を進めていく公立図書館の役割を考えたときに不十分かなと思うので、今後への期待を込めて、「B」にしたい。

委員 先ほど、設計のお話を伺ったがちょっと具体的にわからないことなので判断しづらいのですが、担当の方が評価を「B」とされたということなのでそれに従うというか、評価は「B」なのかなと思う。

委員 私は保育園をいくつか作ってきたことがあるので、「B」というのは、かなりきついのではないかなと、作っていく時点では、こうじゃなかったということがいっぱいあるので謙虚な気持ちで「B」とおっしゃったのかもしれないが、よくあることだと思う。ですから、そこに関しては致し方ない部分もあるんじゃないかと思う。ただ人に関しては「B」かなと思うが、建築に関しては「A」でもいいのかと思う。

- 委員 書いてある通り、設計のところは評価する。職員体制の見直しのところでは、十分検討していただきたいとか心配だなというところがある。市の方々も働き方改革、適正な仕事、役割分担をしていただき、上手に人を配置していただければと思う。その辺も含めて、「B」かと思う。
- 会長 出来ているところは出来ている、進められているところは進められているが、それがどのくらいできているのか、進められたのかを測る指標がない中、評価するのは難しい。今回は図書館としての自己評価も「B」であるし、私たちから見てもいくつもの要望があったので、図書館協議会の評価も「B」としたい。
- 会長 評価に関する協議は一旦ここで終了とする。その他以降の内容や次年度以降の評価方法等については、次回以降の協議会の議題にしたい。本日の議題はすべて終了したが、みなさんからなにかあるか。
- 副会長 2つお知らせがあります。「子どもコロナ新聞」を絵本作家のおくはらゆめさんが、毎週日曜日に発行している。コロナに関して子どもたちに向けて、いろいろな心配があるが、実際にどうしたらいいのか、子どもから出た疑問についてこの図書館協議会前期の委員であった伊沢尚子さんというサイエンスライターの方が子どもにもわかりやすく解説している新聞である。ネットで簡単に出てくるので是非、読んでみると大人も学べますというお知らせである。それから、今、会長がおっしゃった評価についてだが、私たちも2回体験したが、今後に向けていろいろ学ばなくてはいけないと痛感している。ご存じの方もいらっしゃると思うが「みんなの図書館」という図書館を運営する側の職員の方たちの会が発行している月刊誌の今年の5月号に、「図書館評価を考える」が特集され、とても参考になるので、よろしかったらみなさんで読んで勉強したいと思った。
- 副会長 最初に本館再整備担当課長が報告した入札が3～4カ月、もしくは6カ月先に延びてしまったという件は、どういうことになるのか。工事の開始が遅れたので、開館予定がずれ込むということか。
- 本館再整備担当課長 開館予定時期は少なからず遅れることになる。現段階では具体的な時期を示すことはできないが、検討・調整しているところである。
- 会長 それでは、令和2年度第2回図書館協議会定例会はこれで終了とする。ありがとうございました。